

2024 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（政策科学総合研究事業）
「医薬品・医療機器等の 費用対効果評価における公的分析と公的意思決定方法に関する研究」

分担研究報告書

医療経済評価人材育成についての現状～慶應義塾大学 HTA プログラムを中心に～

後藤 励

慶應義塾大学 大学院経営管理研究科/大学院健康マネジメント研究科

1. はじめに

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科では、2019 年度に国立保健医療科学院より「医薬品及び医療機器等の費用対効果評価のための人材育成プログラム開発事業」（以下、人材育成プログラム開発事業）を受託して、「医療経済評価人材育成プログラム」を開始した。5 年間が経過し、本事業は 2023 年度をもって終了した。

2024 年度より、「医薬品、医療機器及び再生医療等製品の費用対効果評価のための人材育成事業（大学院前期課程相当のもの）」を新たに受託し、2023 年度までに開発された人材育成プログラムを実行に移し、継続的に人材育成を進めることとなった。

本稿では、人材育成プログラム開発事業で得た課題を基に行われた 2024 年度からの事業の結果について報告する。

2. 医療経済評価人材育成プログラムについて

本プログラムでは、医薬品・医療機器等の 費用対効果評価（以下、費用対効果評価）を行う人材を育成することを目的の一つとしているが、より幅広い人材に医療経済評価に興味を持ち学習と研究を行ってもらうために、ミッションとして「持続可能な保健・医療制度を支えるために、費用対効果評価を中心とした医療経済分析を、様々な視点を持つて行うことができる人材を育成する」ことを掲げている。

2019 年度から行われている費用対効果評価に公的分析の立場から関わるものを育成する目的のためにも、追加的有用性の評価に必須の臨床試験に関する知識を修得するため、「臨床試験方法論」2025 年度から推奨科目とすることとした。

本プログラムのための教育コースである「医療経済評価コース」は、表 1 で示されるカリキュラムで実施した。疫学・統計学関連科目群及び医療経済評価関連科目群の 11 科目 20 単位を取得したものにサーティフィケート（修了証）を授与している。

表 1：医療経済評価コースにおける提供科目

科目名	開講学期	単位
■疫学・統計学関連科目群		
基礎疫学	春学期	2
基礎生物統計学Ⅰ	春学期	2
基礎生物統計学Ⅱ	春学期	2
応用生物統計学	秋学期	2
■医療経済評価関連科目群		
医療制度とレギュラトリーサイエンス	秋学期	2
医療経済学Ⅱ※	秋学期	2
ヘルスエコノミクス※	通年	2
医薬経済学	春学期	2
QOL と費用の評価	秋学期	2
医療経済評価特論	秋学期	1
費用対効果評価演習	秋学期	2
経済評価モデル分析演習	春学期	1
■取得推奨科目		
医療政策・管理学	春学期	2
製薬産業論	春学期	2
応用経済評価モデル分析演習	春学期	1
臨床試験方法論	秋学期	2

※ 1 「医療経済学Ⅱ」と「ヘルスエコノミクス」はいずれか 1 科目の履修を必須とする。

これらの科目の履修により、次のような費用対効果評価の専門家が修得することが求められる知識・能力を十分理解することが期待される。

1. 基礎的な数理的能力及び統計モデル等知識
2. 疫学・生物統計学の専門的知識
3. 研究デザイン、特に無作為化比較試験のデザインや統計的手法
4. 費用対効果評価に関するモデル構築あるいは統計解析
5. 費用を含めたデータの統計解析についての知識
6. 得られた費用対効果の結果の適切な解釈
7. 公的社会保障制度や医療供給体制等についての知識
8. 学会や査読つき論文を英語で発表できる能力

9. 費用対効果評価の専門家集団の一員としての自覚の修養と、その職業倫理に対する理解

このうち、8の学会や査読つき論文を英語で発表できる能力は、修士課程在学中には学会発表もしくは学会や査読付き論文の英語での公表は必須となっていないため、努力目標とし、費用対効果評価の専門家としてキャリアを進めたいものについては、修士課程修了後に博士課程に進学し研究を継続することを勧めている。

3. 医療経済評価コース履修者について

医療経済評価コース科目は、健康マネジメント研究科含む慶應義塾大学のすべての大学院学生の履修が可能である。さらに、学位課程に入学しない場合でも慶應義塾特別学生（科目等履修生）として履修することが可能である。

大学院健康マネジメント研究科の修士課程の入学試験は、国内外の多様な価値観を持つ学生を受け入れるため、Ⅰ期（7月）、Ⅱ期（11月）、Ⅲ期（1月）の年3回実施している。また、科目等履修生の手続き日程については、春学期または秋学期から受講が開始できるよう年2回実施している。2024年度より始まった人材育成プログラムでは、下の表2のような履修者数を計画した。

表2：人材育成プログラムにおける履修者の計画

入学年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
本学大学院生の内 HTA コース受講者数の目安	10	10	10	10	10
科目等履修生受入れ人数	4	4	4	4	4

3. 初年度の結果

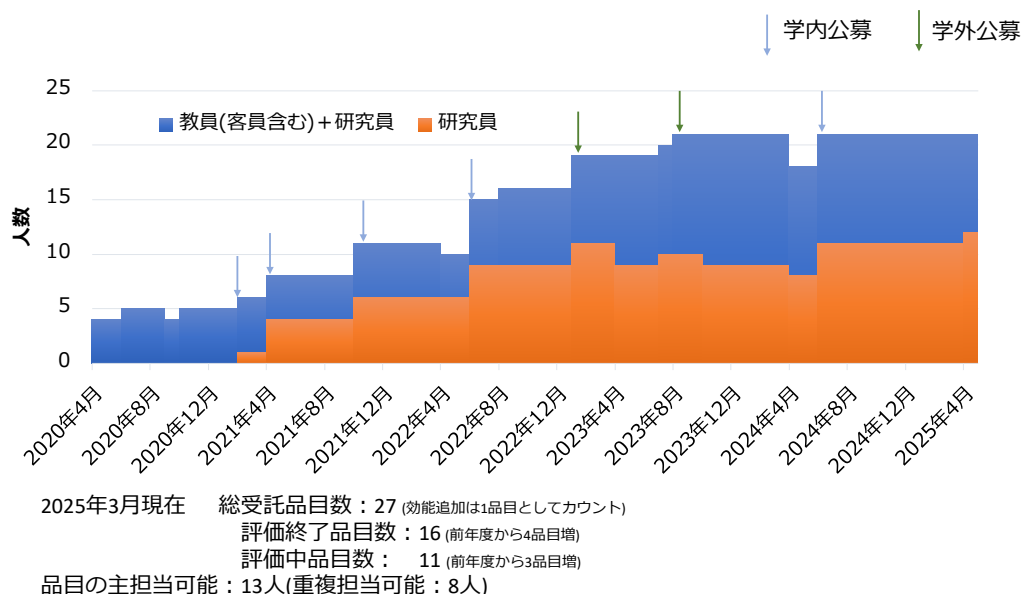
医療経済評価コースは学内外からの多様な履修者に間口を広げるため、どの科目から取り始めても良い設定としたため、正式にコース参加を申し込む形とはしていない。そのため、2024年度からの新規コース参加者の目安として、春学期に開講している「医薬経済学」の登録者を新規コース参加者とした。その結果、14名が新規コース参加者となった。

また、2024年度で終了した人材育成プログラム開発事業の受託期間中にコースの履修を開始したもののうち、2024年度に8名が医療経済評価コースの修了証を授与された。そのうち、7名が修士課程学生であり1名が科目等履修生だった。8名のうち、医師が3名、薬剤師が1名であり、博士課程に進学したものは2名であり、コース修了者のうち多くの

ものは、在学中に所属していた企業での勤務を修了後も続けた。

慶應義塾大学では、2020 年度より費用対効果評価の公的分析班に参加している。医学部衛生学・公衆衛生学教室のもとに公的分析研究室を組織し、公的分析の委託事業で雇用した特任教員・研究員が中心となって業務を行っている。本学では、医療経済評価にかかる人材育成も行っているため、修士号を取得したものに対して公的分析業務に参加を募っている。

ここで、公的分析班の人員についても、図 1 に示す。2024 年度で終了したした人材育成プログラム開発事業の受託期間中に、主に医療経済評価コース修了者に対して学内公募と、広く公的分析人材を求める学外公募を行って人員を補充した。



2023 年後半からは、メンバーの異動等はあるものの非常勤も含め総計 20 名の人員で公的分析業務を行っており、2024 年度までで総受託品目は 27 を数えている。一つの品目に対し、責任者である主担当 1 名と主担当を補佐する副担当 1～2 名をおいている。主担当に初めてなるものについては、経験豊かな教員が副担当としてサポートをする体制をとっている。その結果、現状では主担当が担当なのは 13 名となっており、常勤職で複数品目の担当が可能なものも 8 名いる。

4. 考察

本稿では、2024 年度より国立保健医療科学院の「医薬品、医療機器及び再生医療等製品の費用対効果評価のための人材育成事業（大学院前期課程相当のもの）」を受託して発足

した、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科の医療経済評価人材育成プログラムの初年度の報告を行った。

修士課程レベルの HTA コースでの人材育成は順調に進んでおり、年間 10～15 名が新規に参加している。また、公的分析班との連携も進んでおり、医療経済評価コース修了後、博士課程に進学するものや、すでに博士号を取得しているものを中心に公的分析への参加を勧めている。

大学院前期課程相当のものに対する人材育成によって費用対効果評価を含めた医療経済評価に興味を持つ人材を広く受け容れつつも、公的分析を行い、品目の主担当を行うのに必要な能力を育成するために今後も、人材育成事業と公的分析事業の連携を深めることが必要だと考えられる。

研究発表

なし

知的財産権の出願・登録状況

なし